

① サイン計画（配置、大きさ、書体）の考え方

■ Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン等における記載

- 「表示サインは、車いす使用者及び視覚障害者に見やすい位置に取り付ける必要がある」
- 「トイレなどの特定エリアを強調する表示サインは、人ごみの中でも視線が届きやすいよう、床面から2,500mmの高さで入口のドア上に取り付ける」
- 「シンボル、文字の大きさは、視距離に応じたものとする」
- 「ユニバーサル仕様のゴシック体を使うべき。欧文フォントの場合、標準的なサンセリフ体で、識別しやすい大文字・小文字」

■ これまでのWSにおける意見

- 「エレベーターの場所が分かりづらいうえ、文字も小さい（現地視察）」
- 「座席の位置が分かりやすいサイン計画をお願いしたい」
- 「近くでみるものと遠くでみるものと、それぞれ見やすいよう計画してほしい」



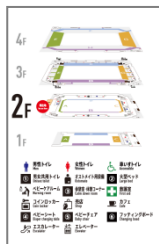
■ サイン計画（配置、大きさ、書体）の考え方

- 建物外から座席やトイレまで円滑に移動できるよう、連続性をもって設置。壁面サインも併用し、低い目線の連続性にも配慮。
- 立ち止まって見るサイン（総合案内図など）、進行方向から見づらい場所に表示するサイン（壁面サイン等）の文字等の大きさは、「見やすく分かりやすい交通拠点のサイン計画の手引き」を準用し、ガイドラインよりも一回り大きい文字サイズとする。
- 書体の選定に際しては、弱視など様々な方にとって見やすいフォントを選定する。
- 誘導ブロック、触知図と、接遇等の運営対応を組み合わせ、視覚障がい者の観客誘導の連続性を確保。

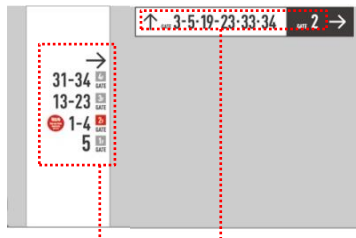
全体像を把握するサイン

動きながら見るサイン

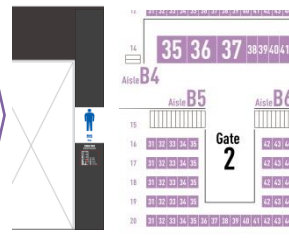
目的地を示すサイン



総合案内板



壁面サイン 天吊サイン 等



トイレ表示サイン 座席表示サイン

サイン連続性のイメージ

「アクセシビリティ・ガイドライン」の文字サイズ

B39 Gate 入口

B39 Gate

B39 Gate

B39 Gate

「見やすく分かりやすい交通拠点のサイン計画の手引き」の文字サイズ

B39 Gate 入口

B39 Gate

B39 Gate

B39 Gate

UD新ゴ

Arial

Frutiger

Helvetica

アクセシビリティ・ガイドラインのフォント 駅や既存施設のフォント

文字の大きさのイメージとフォントの例